

研究課題名	放射線画像の仮想現実・拡張現実空間における再構成プログラムの作成研究
研究の意義・目的	<p>この研究の目的は、レントゲンや CT、MRI などの医療画像を、仮想現実や拡張現実の技術を使って立体的に見られるようにすることです。そして、この新しい方法が従来の平面的な画像よりも役立つかどうかを調べます。</p> <p>この研究が成功すれば、以下のような良い点が期待できます：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医師がより正確に病気を診断できるようになる可能性があります。体の中の複雑な構造や病変の位置関係がより分かりやすくなるからです。</li> <li>2. 医学生や若い医師の教育に役立つかもしれません。体の構造や病気の様子を立体的に見ることで、より理解が深まる可能性があります。</li> <li>3. 手術の計画を立てる際に役立つ可能性があります。手術前に患者さんの体の構造をより詳しく把握できれば、より安全で負担の少ない手術方法を選べるかもしれません。</li> </ol> <p>この研究は、医療の質を向上させ、患者さんにとってより良い医療を提供することを目指しています。ただし、これはまだ研究段階のものであり、実際の診療で使用されるまでには、さらなる研究や検証が必要です。</p>
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ～ 2029 年 6 月
研究協力をお願いしたい方 (対象者)	2007 年 1 月から 2023 年 12 月に既存のデータベース構築課題(課題名：ビッグデータ研究推進のための病院間画像情報連携システム及びデータベース構築、大阪公立大学健康科学イノベーションセンター倫理委員会承認番号:43、大阪公立大学大学院医学研究科での実施許可受理番号:2022-0021K)に登録された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。</p> <p>診療情報：診断名、年齢、性別、X 線画像、CT 画像、MRI 画像</p>
試料・情報を利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	<p>この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科人工知能学、放射線診断学・IVR 学のみで行います。</p> <p>【研究責任者】植田大樹</p>
本研究の利益相反	<p>利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。</p> <p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	<p>大阪公立大学大学院医学研究科人工知能学 担当者氏名：植田 大樹 電話番号：06-6645-3831 メールアドレス：i21175z@omu.ac.jp</p>